

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

全校生徒が輝いた 文化学習発表会！

去る二十五日金曜日に

「百花青放」輝け個性

一人ひとりの色で」のスローガンのもと、第二十五回文化学習発表会が開催されました。担任を中心に各学年でまとまって取り組み、それぞれが持ち味を存分に発揮した、素晴らしい発表会でした。

劇や話し方大会代表の発表を聞きながら考えたのは、身近にある「当たり前のこと」への感謝です。家族のサポートがあるから学校へ行き、勉強や行事に打ち込めます。クラスの仲間や学年の先生方がいてくれるからみんなで一つの劇を創り上げることができま

す。実行委員や生徒会の係りの人が陰で支えてくれるからスムーズに会が進行されます。

存在や、青嶺中学校という環境に感謝の気持ちを持つてほしいと思います。そしてその気持ちを忘れずに中学校生活を思い切り楽しんでほしいと願います。たくさんの笑顔と頑張る皆さんの姿から爽やかな感動をもらいました。本当にありがとう。

「大人」になるって？

皆さんは、「大人」ってどんな人のことだと思えますか？十八歳以上の人、落ち着いている人、自分の考えをしっかりと持っている人：様々な条件があるかもしれないが、私が思う「大人」の条件は、三つあります。

第一に経済的に自立している人（家庭）です。誰かからお金を援助してもらわなくても自分の仕事や才能でお金を稼ぎ、税金を納め、社会のために貢献している人（家庭）です。個人でも家庭でもそれぞれの単位で国を支えている人たちが「大人」だと思います。

第二に気遣いができる人です。人を不快にさせない振る舞いや服装、発言を心掛けている人です。「自分さえ良ければよい」という考え方の人は、その場

に応じた言動を適切には判断できません。自分だけの基準やルールで振る舞い、周囲を不愉快にさせてしまっています。皆が暮らしやすい社会にしていくなためには、やっていいこと、いけないことを正しく見極め、実行することが必要だと考えるからです。

そして第三に、自分の非を素直に認め、謝ることができる人です。どんなに素晴らしい人にも間違いや過ちがあります。そんな時に言い訳をしたり、開き直ったりすることなく、その非を認めて、ちゃんと謝ることができ人は本当に素晴らしいと思います。また謝罪を受け入れて許すことができる人も大人です。年齢

や性別関係なく、そういったことができる人に出会ったら私はその人を心から尊敬します。

「〇〇ファースト」という言葉が一時期もてはやされましたが、私は好きではありません。なぜなら相手意識をもつことが大人への第一歩だと思うからです。

自立した「大人」になるために今のうちから少し意識して行動に反映させてみてください。相手のことを気遣い、職業人としてのプロ意識をもちながら社会に貢献する「大人」が多くなれば、日本は今以上に素晴らしい国になります。将来成長し、考え方や振る舞いが素敵な「大人」になったら皆さんと再会できる日を今から楽しみにしています。

二人で一本！

未経験のソフトテニスに関わってから約二十年が経ちました。教員生活のほとんどをソフトテニスと共に歩み、初めは慣れないことも多かったですが今はその魅力を実感しています。

ソフトテニスの良いところは運動能力が高くなくても練習と戦略、ペアとのコンビネーションで十分戦えるところです。サーブをどのコースにどの強さで入れるか、ペアでどう動くかなど、常に考えながらペアでプレイしなければならず、非常に頭を使います。狙い通りに組み立ててポイントが取れたときには本当に気持ち良いです。

ソフトテニスは二人一組のダブルスが基本で、「個人戦」なのにダブルスです。ですから自分のことだけではなくペアのことも背負う責任が生じます。

ペアによって1+1=2の力がそれ以上になったり、ダウンしたりします。その理由は明確で、相手に不満をもっているペア、自分の意思を伝えきれていないペア、元気がなく声も出さないペアはどんなに力があっても勝てません。それは試合の流れをもってしまうからです。相手のあるスポーツはたとえ

実力差があっても、相手が勝手に自滅してしまうことがあります。テニスはメンタルスポーツなので大逆転が起こる可能性があります。「うまい」ペアが勝つわけではなく「強い」ペアが勝ちます。その強さの根源は「勝ちたい」という強い気持ちと、パートナーに対する「信頼感」だと思います。二人で厳しい状況を切り抜けてきた経験の蓄積が勝負強さにつながるのです。そういう関係性をつくり上げるのは簡単ではありません。お互いを認め合い、時にはぶつかり合って結果を少しづつ積み上げた証なのです。

弱いペアはパートナーがミスしたから負けた、ペアを変えてほしいなど相手のせいになります。私は何千試合と見てきましたが一方のせいだけで負けた試合は一つもありません。原因が両方にあるのです。1+1=1以下のペアはそれが分かっているのです。勝つためにどうするべきかをペアと一緒に考え、そして最後まで諦めずに戦う姿勢を貫き、二人で一本を取りに行くのがソフトテニスです。性格や考え方が違っても試合で勝つという共通の目標に向け、お互いに認め合い、協力し合って一本を取りに行く、誰にでも気軽にできる、奥が深いソフトテニスにまた関わる機会がくることを願っています。